

MUFG Report 2023

ディスクロージャー誌 2023 本編
統合報告書

2023年7月

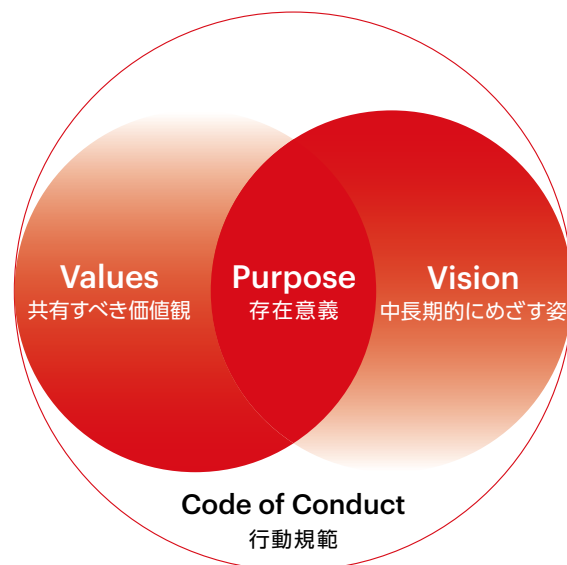
三菱UFJフィナンシャル・グループ

世界が進むチカラになる。



What's MUFG Way

MUFG Wayは、MUFGグループが経営活動を遂行するにあたっての最も基本的な姿勢であり、全ての活動の指針とするものです。経営戦略や経営計画の策定など、経営の意思決定のよりどころとし、また、全社員の精神的支柱として、諸活動の基本方針とします。



存在意義
Purpose

世界が進むチカラになる。

変化の速い時代、全てのステークホルダーが課題を乗り越え、持続可能な未来、新たなステージへと進もうとしています。その思いを叶えるチカラになること、そのために全力を尽くすこと。これが未来に向けて変わらない MUFG の存在意義です。

共有すべき価値観
Values

不変の価値観である「信頼・信用」に加え、「プロフェッショナリズムとチームワーク」、「成長と挑戦」を大切にします。

中長期的にめざす姿
Vision

全てのステークホルダーが持続可能な未来、新たなステージへと進むチカラになることで、真に社会から必要とされる、「世界に選ばれる、信頼のグローバル金融グループ」をめざします。



ファイナンスを、産業育成・イノベーション支援へ

ファイナンスを必要とする事業者と、預金者や投資家を「つなぐ」金融仲介により、産業育成・イノベーション支援のチカラになる



資金決済機能で、遠隔地の社会インフラ整備へ

クロスボーダーも含む、遠隔地を「つなぐ」資金決済により、社会インフラ整備のチカラになる

世界が進むチカラになる。

多様なステークホルダーをつなぐことで、社会課題を解決していきます。



資産運用・承継で、少子・高齢化社会対応へ

親世代と子や孫の将来世代を「つなぐ」、現役時代の貯蓄と老後の生活を「つなぐ」資産運用・承継により、少子・高齢化社会への対応のチカラになる



ルールをつくり、アジアと世界の環境保全へ

気候変動の国際的なルールメイキングに関与し、アジアと世界を「つなぐ」ことで、気候変動対応・環境保全のチカラになる



カルチャー改革を通じて社員の想いを原動力に

世界が抱える課題と社員の想いを「つなぐ」ことで、世界が進むチカラになる

目次

MUFG Way	1
目次	3
マネジメントメッセージ	
CEOメッセージ	5
	
CFOメッセージ	17
	
MUFGの価値創造	
価値創造プロセス	29
ステークホルダーへの提供価値と影響	31
社会の変化に対応してきた歩み	33
米州担当役員メッセージ	35
	
「MUFGならではの」強み	37
グループ総合力	38
アジア戦略	41
モルガン・スタンレーとの提携	45
海外アセットマネジメント事業	47

経営戦略とパフォーマンス	
中期経営計画の振り返り	51
中期経営計画の進捗 2021-2023年度	53
価値創造の実績（財務・非財務ハイライト）	55
デジタルトランスフォーメーション	
CDTOメッセージ	57
	
環境・社会課題解決への貢献	
CSuOメッセージ	61
	
サステナビリティ経営と優先10課題	63
FOCUS サステナブルビジネスの推進	68
気候変動対応・環境保全	
（TCFD提言に基づく開示）	69
カルチャー改革／人材戦略	
CHROメッセージ	79
	
人的資本経営を支える四つの重点課題	81
挑戦と変革のカルチャー醸成	85

事業本部別業績	91
デジタルサービス事業本部	93
法人・リテール事業本部	95
コーポレートバンキング事業本部	97
グローバルコマーシャルバンキング事業本部	99
受託財産事業本部	101
グローバルCIB事業本部	103
市場事業本部	105

リーダーシップとガバナンス	
社外取締役と機関投資家の対話	109



グローバル・アドバイザリーボード	112
コーポレート・ガバナンス	113
リスク管理	123
サイバーセキュリティ	127
コンプライアンス	129
内部監査	131
お客さま本位の取り組み	132

財務情報・会社情報	
11年間の主要財務データ	133
2022年度決算の概要	135
連結財務諸表等	139
競合他社比較	143
会社情報	144

「MUFG Report 2023 統合報告書」をご覧ください
ありがとうございます。

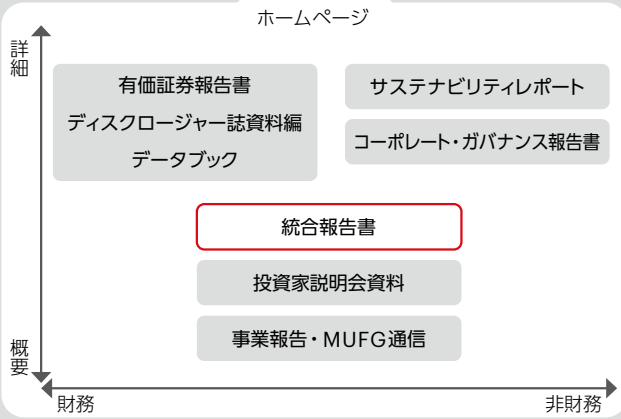
今年の統合報告書では、中期経営計画2年目の進捗をご報告するとともに、長期的にめざす姿や株主価値向上に向けた取り組みについて、マネジメントメッセージと共にご説明しています。また、ステークホルダーの皆さまとの対話の中でいただいたご意見等を踏まえ、「MUFGならではの」強みであるグループ総合力やグローバルネットワークについて理解を深めていただけるよう、内容を充実させました。

私は本レポートの制作責任を担うIR担当役員として、本レポートが経営陣の関与と各部署の連携により誠実に作成され、その記載内容が正確であることを表明します。

今後も皆さまとの対話を通じた気づきや学びを大切にし、開示の充実と透明性の向上に努めていきたいと考えておりますので、忌憚のないご意見をお寄せいただけますと幸いです。

代表執行役専務 グループCFO **米花 哲也**

主な開示媒体



編集方針

MUFGは、投資家を中心としたステークホルダーの皆さまに当社の持続的な価値創造に向けた取り組みをご理解いただくために「MUFG Report 2023 統合報告書」を作成いたしました。編集にあたってはValue Reporting Foundation(VRF)が提示するフレームワークや、経済産業省が提唱する価値協創ガイダンスなどを参照しています。

なお、詳細な財務データ等は、「MUFG Report 2023 資料編」を、サステナビリティへの取り組みの詳細情報は「MUFG サステナビリティレポート 2023 (9月以降発行予定)」をご覧ください。



報告対象期間

2022年4月1日～2023年3月31日
(2023年7月までの内容を含みます)

見通しに関する注意事項

本レポートには、株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループおよびそのグループ会社に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは、当社が現在入手している情報に基づく、本レポートの作成時点における予測等を基礎として記載されています。また、これらの記述のためには、一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述または前提（仮定）は主観的なものであり、将来において不正確であることが判明したり、将来実現しない可能性があります。なお、本レポートにおける将来情報に関する記述は上記のとおり本レポートの作成時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有していません。また、本レポートに記載されている当グループ以外の企業等に関わる情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について当社は何らの検証も行っており、また、これを保証するものではありません。なお、本レポートの数値は日本会計基準ベースのものです。

本レポートにおける表記の定義

持株：三菱UFJフィナンシャル・グループ
銀行：三菱UFJ銀行
信託：三菱UFJ信託銀行
証券：三菱UFJ証券ホールディングスおよびその子会社
MUMSS：三菱UFJモルガン・スタンレー証券
ニコス：三菱UFJニコス
MUAH：MUFG Americas Holdings Corporation
クルンシィ(アユタヤ銀行)：Bank of Ayudhya Public Company Limited
ダナモン銀行：PT Bank Danamon Indonesia, Tbk.
FSI：First Sentier Investors Holdings Pty Ltd
AM：アセットマネジメント(資産運用)
IS：インベスターサービス(資産管理)
親会社株主純利益：親会社株主に帰属する当期純利益